

明新館通信

第5号

山形県立上山明新館高等学校
山形県上市市仙石650番地
023-672-1700
平成20年8月27日(水)発行

どんな時でも、こどもには「大丈夫だ！」と語れ



7月26日(土)午後2時から、本校体育館で平成20年度のPTA講演会が行われました。講師に、村山市樽石にある「樽石大学」学長の松田清男(まつだせいなん)氏をお願いしました。これまで2000回ほど講演をなさっているとのこと。「こどもの心を育てる」という演題のもと、改めて子どもを育てることの重要性について気づかされた90分でありました。特に印象に残った言葉を書き出してみます。

- 子どもの前で、夫婦喧嘩をしたりや金の心配をしたりしては駄目。子どもは不安になる。どんな時でも「大丈夫だ」と語れ。そうすれば子どもは安心し、やる気が出てくる。
- 水辺に馬を連れて行くことは出来るが、馬に水を飲ませることは出来ない。水を飲ませるには馬を走らすことが必要だ。そうすれば自然と水を飲むようになる。子どもも同じだ。やる気を起こさせることが大事で、そのための仕掛けが必要。「やる気を育てること」これが教育にとってもっとも大切なこと。
- 目を合わせて挨拶をすること、背筋を伸ばすことが大切。一つのことを徹底してきちんとすると、他のものもきちんとするもの。そうして、心が育ってゆく。
- 子どもは人類からの預かりもの、いわば神の子。二十歳になるまでは死に物狂いで育てるものだ。
- 子どもの教育は「あ・ね・こ」と覚えておくと良い。「あ」は愛情、「ね」は熱意、「こ」は根気。子どもが成長するまで親は100回泣きたくなるものだ。
- 私を育ててくれた獣医の祖父は、その頃珍しい自転車を往診に使い、とても大切にしていた。それは、自転車(いわば物)に対する感謝の気持ちからである。経済的なことを考えてのことではなかった。物やお金が万能だと錯覚するようなこの時代に、金では買えない「心の宝」を孫たちの世代に残していこうと思う。

最後に講師のアコーディオン伴奏により全員で「ふるさと」を歌い、講演会は終了しました。

松田 清男プロフィール

1930年生まれ。41年間の教員生活を終え、平成2年に樽石大学を開校。写真・ハミリ映画・鮎釣り・バスケットボール等、趣味多彩。現在、村山市立村山図書館長等の要職を勤める。

自宅 村山市大字樽石5-1 電話0237-56-2078(自宅) 56-3399(大学)

安孫子選手激走

(北京オリンピック400M×4予選)



8月22日(金)夜、日本中の期待を背負い、本校出身の安孫子選手が400M×4の第1走として激走しました。「自分らしさ」のパフォーマンスでしたが、最後の100メートルで世界の強豪に抜かれ、不本意な結果に終わってしまいました。しかし、10代でオリンピックの大舞台に立てたことは、彼の今後の大きな飛躍に役立つはずです。引き続き、安孫子選手を応援していきましょう。

当日、本校の会議室では大画面のテレビを見ながら彼の活躍を応援しました。

ドイツ・ドナウエッセンゲン市学生との交流

8月7日(木)に、山市と友好都市であるドナウエッセンゲン市の高校生10名と引率者2名が本校生徒と交流しました。本校では、書道体験・日本音楽鑑賞・食用ほおずき加工体験・茶道体験を企画しおもてなしをしました。夏休み中にも関わらず歓迎してくれた書道部員・邦楽部員・食料生産科の諸君・茶道部員に感謝します。皆大変満足して次の訪問先に出発しました。名残惜しくて30分ほど出発が遅れました。



8月30(土)・31(日)は本校の麗明祭(学校祭)です。テーマは「響(ひびき)想いをこころに」です。一般公開は、31日(日)の10:00~14:30です。是非御来場の上、本校生の活動を御覧ください。